

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和	ユニット名	第1ユニット
所在地	静岡県静岡市清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	令和7年9月26日	評価結果市町村受理日	令和7年11月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigvo_syoCd=2274202254-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 静岡評価センター
所在地	静岡県静岡市清水区船越南町745番地の7
訪問調査日	令和7年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年頭より仕事の効率化、ペーパーレス化、ICT導入に尽力しました。当初は混乱がありましたが若手職員の達の力量によりリーダー的な存在として知力していただき仕事の効率が上がり職員の休憩時間の確保までこぎつけてきました。結果、業務の整理もでき利用者職員がゆったりとする時間が出来ました。ICTの導入から半年経過し入力は職員全員ができるようになりました。苦手意識の強かった職員もできるようになり学習意欲を高め仕事の質向上につなげることができました

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム正面の外壁に設置している電光掲示板では、地域に向けてホームの理念や基本方針を発信している。業務の効率化やICT化の推進を図り、職員の意見を参考にして情報の共有と業務内容の整理を行っている。その結果として、休憩が取りにくいとの課題について解決に至り、30分の休憩時間を確保している。管理者は、さらに職員の負担軽減を図るため、休憩時間40分を目指している。ホームとして地域防災への意識が高く、災害時の避難場所の確保や必要物資の配給を受ける体制を整備している。管理者の積極的な働きかけにより、地域との関わりが充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会活動の継続や 施設独自で住民に浸透していただける活動(ボランティアの受け入れ・福祉体験・おまつり等)も行っていきます。	「認知症になっても住み慣れた町で人として暮らしたい」をホームの理念とし、尊厳を持って生活できるホームを目指している。理念を玄関に掲示して共有を図り、日常生活での言葉使いなどに気を配っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は長年にわたり神社の総代を務め地域住民たちと神社のボランティア活動を行っています。祭事の際はお供え物を頂いたりしています。鯛をいただくとスーパーでお刺身に加工し食事に盛ることがあります	ホームは自治会に加入し、ゴミ当番など地域の役割を行っている。また、ホーム正面の外壁に電光掲示板を設置し、情報発信している。本年10月には「平和祭り」を開催し、近隣店舗の出展により大勢の地域住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域に暮らす認知症の高齢者について安全な暮らしにむけての情報共有を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に住む1人暮らしの認知症高齢者が入所した際に知人が面会を希望された際、経済搾取、カスハラ言動等の対応に困りました。会議では対策について色々な提案を頂き対応法を職員に周知させることができました	会議では防災についての議題を多く取り入れ、ホームの方針や地域の情報について意見交換している。利用者家族には県外者も多いため、参加を得られない実情があるが、会議の内容を都度家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員さんが月1回訪問してくださりご利用者1人ひとり、丁寧に接してくださっています。感想や疑問に思うことを聞いてくださりその場で解決したことも多々あります	介護保険事業者連絡会など、市職員が出席する会議に参加した際に意見交換を行っている。月に一回訪問がある介護相談員より、利用者の想いや外部から見たホーム運営の実情など、さまざまなアドバイスがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束については現状について代替法も含め職員に聞き取りをしています。やむを得ず行う場合は見直しを行い漫然と拘束が行われないようにしています	身体拘束は行わない方針である。利用者への言葉使いや対応など、職員研修で具体的な実例を上げている。「どう感じるか、どのような対応が望ましいか」を書面でホーム長に提出し、個別に話し合う取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で起きやすい言葉の虐待は見逃さないようにしています。定期的に虐待の話し合いをする際の題材にしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用をしているご利用者がいるので制度を利用する経緯や利用内容については管理者から説明を受けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、相談時間をもうけたり電話でやり取りするよりメールで疑問、質問をうけることで理解が深まっていると思われる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度からメールでのやり取りにご協力いただきご家族が時間をきにせず意見や要望を施設に伝えられるようにしました	職員が意見を聞き取り、介護ソフトに情報を入力して共有している。必要に応じて、申し送り時に職員間で検討と共有を行っている。家族からは利用者について個別の要望が多い。介護日誌について、家族への今後の周知方法について検討していく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場を観ながら今、起きていること、課題になること等を職員に投げかけ意見を聴くようにしています	ホーム長が各職員に直接声掛けを行い意見を聞き取っている。業務効率化とICT化を行う際に職員からの提案で休憩を行う際のマニュアルを作成している。結果として、休憩が取りにくいとの課題について解決に至った実例を確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の評価表があり給与に反映させています。勤務は個々の事情を考慮するようにしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ICT導入に際しては力量に合わせていくことが課題になりました。達成度の高い職員が中心になり短期間でほとんどの職員がiPadへの入力が可能になりました		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5月に他施設が集まりカスハラ問題についての話し合いや他施設の役割についての連携会に参加10月に業務継承計画にありません他施設連携に向け医療機関の災害対策、災害時の役割確認について地域で話し合いを予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	医療機関に入院していたご利用者ですが尿カテーテル留置中で抜去の恐れがあり不穏が強く拘束を受けていました。近隣であること、尿カテーテルを自己抜去しない工夫、抜去してしまい血尿が出た際の対応についての話し合いを重ねました		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	医療機関に入院していたご利用者は医療依存度も高いと判断しました。ご家族は色々な施設を探して当施設に辿りつきました。近隣であること、療養型への転院を強くご利用者が拒否している等内容を十分に聴きとりました		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際にキーパーソンがコロナに感染してしまいました。1日も早く病院から退院したい希望を聞き入れ身内の方が代行して入所に付添われました。予定通りの入所日になりました		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話の好きなご利用者は隣の片麻痺のあるご利用者に簡単な食事の介助をしてくださっています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	海外に暮らす娘様が母親に会いに帰国しました。コロナ蔓延の中でしたが、孫息子様も一緒に面会ができるように配慮しご利用者にとっては生きる張り合いにつながったようです		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者は地域で長年にわたり中華料理屋を営んでいました。友人たちも多く面会に来られます	ホームの近隣に住んでいた利用者が多く、知人の面会や家族と共に自宅へ外出する機会がある。また、面会はコロナ禍から現在も時間制限を行っているが、居室で行うことを基本としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	若いご利用者は残存している機能が少なくご利用者間とのコミュニケーションもうまくとれません親子ほど年が違いう隣のご利用者が声掛けや世話を焼いてくださいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外で元ご利用者のご家族にお会いした際は声をかけています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フロアで過ごしたい方、トランプをしたい方、体操を日課にしている方、心臓が悪いので居室で休みがちの方とご本人の望まれる生活の意向をくみ取りながら1日が過ぎていきます	思いや意向は職員が聞き取り、介護ソフトを通して共有している。対応困難な意向に対しても否定せずに、出来ることを考えて実現することを方針としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所情報は、入所に至るまでの経過、生活歴、ご家族との関係、環境を職員全員に周知してもらっています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アイパッドの利用でご利用者情報、毎日の心身の状況(食事、排泄、水分、生活の様子等)が一目で分かるようになっていきます		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の課題を抽出し暫定のプランをアイパッドに入れ込み介護に反映させています。実行してもうまくいかないときは職員からアイデアをだしてもらい変更します。アイデアに対し結果の良し悪しがでも介護手段の引き出しになっています	介護支援専門員であるホーム長が介護計画を作成し、職員は介護ソフトで共有している。利用者の状態や希望など、日々の状態が介護ソフトに記入されている。これらの情報を元に、必要に応じて計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパッドの利用によりご利用者全員の日々の様子が把握しやすくなっています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	海外に暮らす娘様が母親に会いに帰国しました。コロナ禍蔓延の中、本来なら面会はできませんが事情をうけとめ面会の許可は柔軟な支援につながっていると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の前には薬局やスーパーがありご本人も入所前は買い物に来ていた場所であり好物を気軽に購入できます。施設の外壁にはダミーですが防犯カメラが設置されています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1か月に1回は身内と眼科に出かけていました。が心臓の機能が急激に悪化したことで身内に眼科医に相談に行ってくださいに当たり情報を提供させていただきました。内科は往診医が月に2回来てくださいます。状態の変化があった際は往診医から説明を受けていただいています	ホームと往診医(主治医)との関わりは長く、本人と家族の意向に沿った支援が定着している。調査当日は蔓延したコロナが収束しつつあるタイミングであったが、2か月余りを主治医と職員が連携して乗り切っている。看護師が2名在籍していることで、体調管理が適切に行われている。	投薬の対応など、職員が統一した介護を行うことが大切である。関連するマニュアルやBCPなど、標準的な実施方法に沿った対応を全体で振り返り、判断に迷う点など確認し合うことが望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、看護職員がご利用者の健康管理を行っています。介護職員はご利用者の体調変化を報告する体制ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年のご利用者の入院はありません		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族に重篤化した場合の指針を説明し書面で同意をいただいています。急激に変化があった際は施設でできることできないことを説明し同意を頂いたり他の選択肢も説明しご家族、ご本人の意向を聴くようにしています	家族、職員、主治医が連携し、本人に寄り添う看取り支援を実践している。急変時のマニュアルを作成し、職員全員が同様に適切な支援を行うように努めている。本人と家族がホームを終の棲家として希望する場合には、できる限りの支援を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルができています。定期的に見直しをします		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルについては目につくところに掲示、毎月の自家発電機の点検は予定されています 10月に地域と災害時の話し合いをする予定です	自然災害と感染症のBCP(事業継続計画)を策定している。今回のコロナ感染症の蔓延において、「両ユニットに対する区分け」を反省点として捉えている。災害時の避難場所の確保や必要物資の配給を受ける体制を整備している。	コロナ感染症の蔓延で課題として捉えた点について、振り返りと分析を行いBCPに反映させることが望まれる。今後、さらに現実的で実用性のあるBCPに更新されていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのペーパーを多量につかってしまうご利用者がいます。パズドは流してしまうので使うことができません。ペーパーを厚みをつけて畳んだものを数組ホルダーの上に置いておくようにしています	職員は本人が選択できるような声掛けを心がけているが、状況によって業務優先になっている場面が見受けられる。お茶の時間などにコミュニケーションを図り、気づかいや心遣いができることを課題としている。入浴の際にはパーティションで仕切り、羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の活動の予定はありますが声掛けしても拒否する人や集団での活動を好まない方は無理強いはしていません		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などは当日拒否したり準備から入浴までゆっくりとやりたい方は職員もゆっくりと入っていただくよう時間や順番の配慮はしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で準備して着てこられるご利用者がいます。真冬の物を着られてしまいましたが、ご自分で選ばれて着ているので静観している部分もあります		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生ものがお好きなご利用者に時々、マグロを使ったメニューをお出ししています。出来るご利用者へ食事前の野菜の皮むき、洗った食器の拭き上げは続けています	朝食以外は食事専任の職員が調理している。代替食を用意することや器を変えるなど、一人ひとりが食事を楽しめるように工夫している。訪問当日、出汁のいい匂いで食欲をそそられた。料理の内容を丁寧に伝え、本人のペースに合わせて食事を促す職員の様子を確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食のご利用者への盛り付け、口腔内の状況により食材の形を工夫し食べやすいようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは皆様に声掛け、一部介助を行っています。歯型が合わずにいたご利用者は往診歯科医が歯型に合わせた義歯の検討を重ね短期間で再作成してくださいました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分からトイレの要求のない方は誘導させていただいています。心身の状態が悪く放尿等が見られた方は一時的にリハビリパンツの着用をしましたが、現在は失禁、放尿がなくなったので布製のパンツ着用に戻しています	利用者のパターンにあわせて、誘導や見守りを行っている。筋力低下予防として、ラジオ体操などで20～30分体を動かすことを日課としている。毎朝1杯のお茶で喉を潤し、同時に腸を刺激している。便秘改善で甘酒や牛乳を飲む人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、昼のデザートに自家製ヨーグルト(バナナ、はちみつ混)を皆様にお出ししています。水分補給でポカリスエットを飲まれているご利用者もいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否のあるご利用者は、声掛けのタイミング、拒否時の対応を検討しながら日に関係なく入浴していただいています	週3回の入浴では、安全を最優先として清潔を保っている。家庭の生活スタイルに合わせて、15時頃から入浴時間を設定している。希望があれば同性介助にも応じている。ヒートショック対策として、脱衣所と浴室の温度差をなくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本はフロアで過ごされている方が多いです。昼食後は午睡されているご利用者がほとんどですが、疲れたから休ませてほしいご希望のある方はご希望時居室に誘導させていただいています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況が記録されているファイルがあります。又 薬の変更があった場合は、アイパッドに入力して申し送ります		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の差し入れがありますと個別になりますがコーヒーをドリップで飲んで頂いています。好物のお菓子や健康飲料を差し入れして下さるご家族がいますのでご本人にお出ししています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は猛暑日が長く思うような外出はできません デイサービスで駄菓子屋慰問やイベントの際に参加しました 入所前に利用していたのでデイの仲間たちに会えてとても喜んでいました	可能な範囲で近所に出かけるようにしているが、多くの機会には恵まれていない。家族と外出(外食)に出かける人がいる。今後は、継続的な関係性の観点から、月1回程度の外出や外泊などで家族の協力を得たいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時よりお金を所持しています。希望はありますが、1度にすべて使い果たしてしまうので買い物の付添い時にセーブさせていただいています。身内からお小遣いを預かりご希望するノンアルコール焼酎を毎夕飲んでいただいているご利用者がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を居室で使用できるご利用者がいます。毎日同じ時間に海外に住む娘様からの電話を心待ちにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く開放感があります。中にはヤマボウシ(落葉樹)が植えられ猛暑が続く時期に鳥が巣を作り雛をかえし巣立っていきました。雛の音が賑やかで巣立つまで話題になりました	木材を多く使用した内装は落ち着いた雰囲気、中庭にある落葉樹の若葉や紅葉などで四季を感じることができる。ホーム内の通路は広く、車いすの移動はスムーズである。コロナ感染症対策として、玄関ホールに大きな扇風機を置き換気している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなフロアの片隅に道路側に面した窓にスペースがあり外を眺めている姿を見かけます。人の往来する風景を眺めながら家族が迎えに来るのを待っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心身の状況が変わりやすいご利用者がいます。腰痛があり寝たきりになり車椅子で介助を受けていた矢先に自力で歩行器で居室から出てこられます。安全に移動できるようにベッド、タンスの配置を変更しました。	安全面を考慮して、居室内も動線を広めに確保している。一人ひとりの生活リズムを大切に、朝夕の着替えや整容の際には本人の意向を聞いている。褥瘡予防にエアーマットを導入したり、羽毛布団を使用するなど、寝具に配慮がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で足漕ぎ自走される方、歩行器を利用して移動される方が増えています。衝突事故が起きないように見守りや安全な移動同線を確保しています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和	ユニット名	第2ユニット
所在地	静岡県静岡市清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	令和 7年9 月 26日	評価結果市町村受理日	令和 7年 11月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2274202254-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 静岡評価センター		
所在地	静岡県静岡市清水区船越南町745番地の7		
訪問調査日	令和 7年 10月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年頭より仕事の効率化、ペーパーレス化、ICT導入に尽力しました。当初は混乱がありましたが若手職員の達の力量によりリーダー的な存在として知力していただき仕事の効率が上がり職員の休憩時間の確保までこぎつけてきました。結果、業務の整理もでき利用者職員がゆったりとする時間が出来ました。ICTの導入から半年経過し入力は職員全員ができるようになりました。苦手意識の強かった職員もできるようになり学習意欲を高め仕事の質向上につなげることができました

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会活動の継続や 施設独自で住民に浸透していただける活動(ボランティアの受け入れ・福祉体験・おまつり等)も行っていません	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は長年にわたり神社の総代を務め地域住民たちと神社のボランティア活動を行っています祭事の際はお供え物を頂いたりしています。鯛をいただくとスーパーでお刺身に加工し食事に盛ることがあります		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域に暮らす認知症の高齢者について安全な暮らしにむけての情報共有を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	措置入所しているご利用者についてサービスの実際や守秘義務の限界もあり災害時のことも含め情報を地域にながすことで最低限の情報共有はしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員さんが月1回訪問していただきご利用者1人ひとり、丁寧に接して下さっています。感想や疑問に思うことを聞いていただきその場で解決したことも多々あります		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束については現状について代替え法も含め職員に聞き取りをしています。やむを得ず行う場合は見直しを行い漫然と拘束が行われないようにしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で起きやすい言葉の虐待は見逃さないようにしています。定期的に虐待の話し合いをする際の題材にしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用をしているご利用者がいるので制度を利用する経緯や利用内容については管理者から説明を受けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、相談時間をもうけたり電話でやり取りするよりメールで疑問、質問をうけることで理解が深まっていると思われる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度からメールでのやり取りにご協力いただきご家族が時間をきにせず意見や要望を施設に伝えられるようにしました		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場を観ながら今、起きていること、課題になること等を職員に投げかけ意見を聴くようにしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の評価表があり給与に反映させています。勤務は個々の事情を考慮するようにしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ICT導入に際しては力量に合わせていくことが課題になりました。達成度の高い職員が中心になり短期間でほとんどの職員がiPadへの入力が可能になりました		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	5月に他施設が集まりカスハラ問題についての話し合いや他施設の役割についての連携会に参加10月に業務継承計画にあります他施設連携に向け医療機関の災害対策、災害時の役割確認について地域で話し合いを予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	回復期病棟で身体拘束を受けているご利用者がいました。拘束によりベッドからの起き上がり以上のことができずにいました。ご家族、ご本人との面談で解放されたい要望を感じました		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	回復期病棟で身体拘束を受けているご利用者がベッド上で過ごすことに不安を抱え猛暑の中、毎日2回面会に出かけている高齢の妻のため1日も早く転院したい希望をかなえるため病院との交渉役になりました		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	回復期病棟で身体拘束を受けているご利用者が入所する際に家で使っていた歩行器と同様のものを使用することで見守りの中で自ら歩行移動を可能としました		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	歩行は不安定ですが、自立心の高いご利用者へのケアに対し静観することもあります		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	携帯電話を所有しているご利用者がいます。難聴があります。息子様は母親の声を聴きたいことがかかってきますが着信に気が付かないことがよくあります。毎日職員が携帯の確認をさせていただいています。かけなおしをお手伝いします		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前は毎日のようにデイサービスを利用していたご利用者がいます。入所後も週に2～3回の利用を継続しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、午前中に体操を20分ほど行っています。隣のユニットから参加できるご利用者が移動されてきて合同で行います。気の合うご利用者とお話ができるよう席の配置を考慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外で元ご利用者のご家族にお会いした際は声をかけています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	洗面所で自分の好きな時間に洗顔、体をふく、声を掛けられてからゆっくりとフロアーに移動して来られるご利用者はご自分のペースで過ごされています。フロアーと居室を自由に行き来しているご利用者もいます		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所情報は、入所に至るまでの経過、生活歴、ご家族との関係、環境を職員全員に周知してもらっています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アイパッドの利用でご利用者情報、毎日の心身の状況(食事、排泄、水分、生活の様子等)が一目で分かるようになっていきます		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の課題を抽出し暫定のプランをアイパッドに入れ込み介護に反映させています。実行してもうまくいかないときは職員からアイデアをだしてもらい変更します。アイデアに対し結果の良し悪しがでも介護手段の引き出しになっています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパッドの利用によりご利用者全員の日々の様子が把握しやすくなっています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大腿骨骨折し手術ができないと判断されたご利用者は骨がつかないまま介護をすることになりました。リクライニング車椅子で過ごしていただけるよう移乘法、家庭用浴室でのシャワー浴等工夫を凝らしてホームで最期を送ることができました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の前には薬局やスーパーがありご本人も入所前は買い物に来ていた場所であり好物を気軽に購入できます。施設の外壁にはダミーですが防犯カメラが設置されています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	白内障が進んできたご利用者がいます。ご家族が遠方に住んでいて成年後見人がいます。手術治療を望まない自然に任せる希望が聞かれたので眼科医にお話しさせていただきました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、看護職員がご利用者の健康管理を行っています。介護職員はご利用者の体調変化を報告する体制ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大腿骨骨折し手術ができないと判断されたご利用者に職員が早期に受け入れを希望しましたが病院側が血液データの数値が改善しないということで延期が続きました。ご家族の強い希望で1か月で退院してきました		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族に重篤化した場合の指針を説明し書面で同意をいただいています。急激に変化があった際は施設でできないことを説明し同意を頂いたり他の選択肢も説明しご家族、ご本人の意向を聴くようにしています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルができています。定期的に見直しをします		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルについては目につくところに掲示、毎月の自家発電機の点検は予定されています 10月に地域と災害時の話し合いをする予定です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性ご利用者でプライドが高いので言動には注意しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の活動の予定はありますが声掛けしても拒否する人や集団での活動を好まない方は無理強いはしていません		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝ていることが多く入浴を拒否するご利用者に対し声掛けのタイミングを考慮しトイレから出てきた際にお誘いをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	劣化してきた下着でもご本人は破棄したくない思いを汲んで破れたり擦り切れても職員が補修しながら着ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔の状況、咀嚼の力、飲み込む力を見極めて食事の形態を替えています。むやみに刻みやブレンダーにしません。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食のご利用者への盛り付けには配慮しています。蕎麦アレルギーのあるご利用者にはおうどんをだしています。お茶を摂りたがらないご利用者にはおやつ時ポカリスエットを飲んでいただいています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは皆様に声掛け、一部介助を行っています。歯間ブラシを使っているご利用者は職員が支援に入ります。定期的に往診歯科医に検診をお願いしています。残存歯を大事にケアしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄量の多いご利用者に対し早めの声掛けをしています。夜間は失禁による寝衣の汚染を予防するためにパッドの工夫をしています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、昼のデザートに自家製ヨーグルト(バナナ、はちみつ混)を皆様にお出ししています。水分補給でポカリスエットを飲まれているご利用者もいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を希望される妄想の酷いご利用者へは入浴日について事前説明で同意をいただくようにしています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本はフロアで過ごされている方が多いです。昼食後は午後のおやつ迄午睡されているご利用者がほとんどです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況が記録されているファイルがあります。又 薬の変更があった場合は、アイパッドに入力して申し送ります		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前から甘酒、牛飲を飲んでいらしたご利用者には起床時や好む時間にお出ししています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は猛暑日が長く思うような外出はできていません。ご利用者でデイサービスの送り迎えをもらい週2回利用されています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時よりお金を所持しています。デイサービスをご利用され屋外レクで外出した際に支援を受け買い物されています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者は職員の支援を受けながら電話を利用しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く開放感があります。中にはヤマボウシ(落葉樹)が植えられ猛暑が続く時期に鳥が巣を作り雛をかえし巣立っていきました。雛の音が賑やかで巣立つまで話題になりました		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなフロアの片隅に道路側に面した窓があるスペースがあり居室から出てこられると外を眺めて天気を職員に聞いている姿を見かけます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子を自走されますが、歩行が不安定でも居室を独歩で移動されているご利用者がいます。転倒も繰り返しているので安全に移乗や移動が1人でできるように家具の配置を変更しました		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で足漕ぎ自走される方、歩行器を利用して移動される方が増えています。衝突事故が起きないように見守りや安全な移動同線を確保しています		